

次期ビジョン(案)に対してお寄せいただいたご意見への対応

次期ビジョン(案)に対してお寄せいただいたご意見への対応を以下の通りまとめた。

- ・各意見の前に記号と意見提出機関名を表示した。
- ・冒頭の記号
 - ▲ 総務委員会(2021年3月24日)の意見
 - ▼ 各地区協会総会(2021年4月30日提出期限)でいただいたご意見
 - 次期ビジョン策定小委員会の対応
- ・機関名は適宜省略した。総務委員会は(総務)と省略した。
- ・その他
 - ・掲載順は、意見が提出された照会・会議別に、次期ビジョンの配列順とした。
 - ・複数の内容が含まれる場合は分割し、内容に変更の生じない範囲で字句を修正した。
 - ・内容が似たものはまとめた。
 - ・次期ビジョン案に対して肯定的な意見の場合は(肯定的意見)と記した。
- ・目次
 - ・総務委員会(2021年3月24日)の意見 p.2
 - ・各地区協会総会(2021年4月30日提出期限)でいただいたご意見 p.3

総務委員会(2021.03.24)でいただいたご意見への対応

▲(総務)基本理念1行目「デジタル化された」は、「データ」だけにかかるように読める。「データを含む知識及び情報」にかかるようには読めない。「デジタル化された」ものは「データ」だけであり、「知識及び情報」にはかからない(デジタル化された知識及び情報は対象ではない)と考えてよいか。

→デジタル化は知識・情報・データの全てにかかります。修正案を作成しました

▲(総務)著作権法など状況が動いているので「解説」の内容はアップデートしていただきたい。

→「解説」の内容は引き続きアップデートいたします。

▲(総務)「未来志向のビジョンを示すべき」という意見を出したが小委員会で議論されたのか。

→議論しましたが、具体的な文章とすることができませんでした。

▲(総務)基本理念に「利用者」という言葉を追加したのは何故か。

→図書館サービスの対象を明確にした方がよいと考えました。

▲(総務)国大協などとの連携は提言活動に限定するのか。

→提言活動に限定する意図はありません。

▲(総務)果たすべき役割の「連携」において国大図協の位置づけが明確になるような方向で小委員会において議論されたのか。

→できていません。

▲(総務)ビジョン 2020 の重点領域3の目標 2)では大学図書館職員が主語だったが、それを変更した理由は何か。

→次期ビジョンは国立大学図書館協会及び会員館の役割を示すものと考えます。

▲(総務)「調査研究」「研修事業」が国大図協の果たすべき役割として書かれているが、これだけだと国大図協の役割が矮小化されかねないのではないか。

→国立大学図書館協会の役割を矮小化する意図はありません。

各地区協会総会(2021.04.30 提出締切)でいただいたご意見への対応

▼(北海道地区・小樽商科大学)

個々のビジョン自体は時代の要請に応えた妥当なものと思われる。

しかし、「国立大学」の図書館協会としての性格が弱く、研究・教育機関のビジョンとして共通に使えるようなビジョンの感をぬぐえない。

国立大学の図書館であることを考えると、時代の要請に応えることはもちろん、時代に左右されない役割もあるのではないだろうか。

私は自分の専門の関係で、世界中の大学図書館・文書館に潜って文献調査をしていた。どの図書館もその時代ごとの研究者の生き方や思想を後世に残すための努力を至上命題としていた。大学の図書館は、蔵書とそれを使って研究していた研究者を対照できる稀有な図書館である。そのような図書館で文献調査をすれば、対象が生きた時代が再現されるような錯覚に陥ることすらある。

掲げられたビジョンはいずれも必要なものであるし、それ自体には異論はないが、国立大学の図書館にはわれわれの時代の思想と精神を後世に残すというミッションがあってもよいと思う。

→基本理念に含めることはできていませんが、目標 1-1 で「長期的な保存を図る」、目標 1-2 で「長期的な利用を可能とする」としています。

▼(東北地区)

・次期ビジョンの内容そのものについては、たたき台・第一次案に対する会員館からの意見招請を経て、概ね現状で考え得る内容ではないでしょうか。むしろこれから次期ビジョンを協会としてどのように具体化していくのか、ビジョン 2020 での委員会活動の評価・総括を踏まえた今後の協会の組織体制(委員会)の検討状況についても、総会の場で情報共有・議論ができるとうよいと思います。

・国大図協各会員館のリソース(マンパワー)も限られており、これまで以上に、国公私立大学図書館協力委員会や JUSTICE, JPCOAR といった関係委員会等との連携・協力を強化する必要がある一方で、「実験的な試み」も含めた情報共有をこれまで以上に進めていくためには、管理職のみならず、将来の国大図協を担う実務担当者や若手職員が主体的に協会の活動(委員会等)に参画・関与できるような枠組み作りも大事と考えます。

・委員会のメンバーに関して、複数の委員会を重複して担当されていたり、「組織」としてではなく、「人」についた形で委員会が構成されているようにも見え、会員館の意見が反映されにくい要因になっているのではと思います。ビジョンと委員会はリンクするもので、ビジョンの具体化のための手段としても、委員会の構成と活動内容の可視化(オープン化)はセットで検討が必要ではないでしょうか。その上で、若手職員の活躍の場を提供し、ひいては、将来の図書系管理職へと自然に導いていければよいと思います。

→委員会の構成等については、理事会で検討されるものと考えます。

・理念の共有が目的とうたわれているにも関わらず、達成度確認を行うということは、事実上、各会員館での目標設定とその実行が目的と受け止められ、会員館が戸惑うのではないでしょうか(ビジョン 2020 でもこの点が気になりました。)。各会員館に対して、自機関内での目標達成に加えて、国大図協の目標達成を負わせるのであれば、何のためなのかその目的をしっかりと総会で共有すべきではないかと思います。

→行動計画については、各会員館のミッションや中期目標等に沿うように選択できます。各機関の目標達成に国大図協の目標達成が追加されるというイメージではありません。

また、本ビジョンは国立大学協会でのどのような位置づけになっているのかについても総会でご説明いただくとよいと思います。学内で「国大図協のビジョン」を紹介しても大学全体の活動とは無関係なものと受け止められる点を懸念しています。

→ビジョン改訂後、国大協と情報共有する予定です。

▼(関東甲信越地区・千葉大学)

各大学が提出した次期ビジョン(案)への意見に対する次期ビジョン策定小委員会における議論の経緯が不明のままとなっている。どのような議論を経て現在の次期ビジョン(案)となったのかをお示しいただきたい。

→資料をまとめました。

▼(関東甲信越地区・信州大学)

国立大学図書館が、基本理念を実現するために、ビジョンを持ち、実現に向けて活動を進めていくのは素晴らしいことだと考えています。本学でも「ビジョン 2020」に賛同し、活動してまいりましたが、残念ながら達成に至っていないのが現状です。「ビジョン 2025」を拝見しますと、「2020」からの継続といった面も多く見受けられます。「ビジョン 2020」をもう 5 年延長し、2025 では、5 年間の検証とビジョン達成のための修正を行うことを提案させていただきます。

なお、大学のミッションに基づく中期目標・中期計画に、国立大学図書館のビジョンを合わせることは、国立大学図書館のビジョン、ひいては国立大学図書館の基本理念を矮小化しかねないのではないかと、危惧いたします。

→総会への提案ですので、理事会で対応をご検討ください。

▼(東京地区)

○「ビジョン2025」の位置づけ・意義について

- ・学内における図書館の相対的な位置が厳しくなっており、ビジョンの積極的な発信が重要である。
- ・オープン化や国際化について、より具体的な行動計画として盛り込めると良い。
- ・解説案によると、ビジョン2025の特徴は「オープン」であるとのことだが、ビジョン本文か

らはそのことが明確に伝わらないため、必要に応じて目立たせると良いのではないかと。

→次期ビジョン期間中の課題として理事会と共有いたします。

○「前文」について

- ・前文で言及されている「SDGs」実現に向けた活動について、重点領域の中で具体的に言及されていないため、浮いた印象がある。

→SDGs はビジョン改訂の背景として示しました。

○「国立大学図書館の基本理念」について

- ・包括的、抽象的であり、インパクトに欠ける。
- ・デジタル化のすべてを図書館の役割としてしまうのは話が大きすぎるのではないかと。

→デジタル化は、資料として、デジタル化された資料とデジタル化されていない資料とを取り扱うことを書いたものであり、デジタル化のすべてを図書館の役割としたものではありません。

○「重点領域2. 知の創出：新たな知を紡ぐ＜場＞の提供」について

- ・「行動計画 2-2-1」の中にある「その活性化に貢献する」の「その」が指し示すところが分かりづらいため、明確になるよう表現を改めた方がよい。

→修正案を作成しました。文末は行動計画 2-1-1～2-1-4 にあわせました。

▼（東海北陸地区）意見はありません。

▼（近畿地区）特に意見はありません。

▼（中国四国地区）

文章中に「戦略的な目標」「戦略的目標」「目標」の語句が使用されており、それぞれ具体的に何を示すのかが分かりにくくなっている。ビジョンの構成から考えると、これらの 3 つの語句は各重点領域の中の目標を示すものであると思われるので、文章をより分かりやすくするために、「戦略的な目標」「戦略的目標」を「目標」に統一する。

→「目標」に統一しました。

▼（九州地区）

次期ビジョン(案)については、九州地区として修正すべきと合意した点はありません。会員館から個別意見があったので、以下のとおり附帯意見として提出します。

1) 目標 1-1) 教育研究成果の発信、オープン化と保存における表現

次期ビジョンではSDGsを念頭に作成されることから、オープンアクセス・サイエンスのその先にシチズンサイエンス(市民科学)があるのではないのでしょうか。それであるならば、目標 1-1)教育研究成果の発信, オープン化と保存「国立大学図書館は, 大学で生み出される教育研究成果の長期的な保存を図るとともに電子的流通とオープン化を推進する。」に, 以下のようにシチズンサイエンスの記述を付け加えてはいかがでしょうか。

国立大学図書館は, 大学で生み出される教育研究成果の長期的な保存を図るとともに電子的流通とオープン化によるシチズンサイエンスを推進する。

行動計画 1-1-1)はそれを実行することにより, 目標 1-1)のシチズンサイエンスは達成できると考えます。

→シチズンサイエンスへの言及は, 少し時期が早いと考えます。まずはオープンアクセス, オープンサイエンスを進めたいと考えます。

2)目標 3-1)多様な人材との協働における表現

図書館における「キュレーション」の定義がビジョンの中で「評価」や「選別」と定義されることは適切ではないように思われます。

しいて記述するなら, 「学術情報を整理し, 新たな価値の創造を行う「キュレーション」…」等とかの表現がいいのではないのでしょうか。

→修正しました。